



オズール社製品紹介

一方、用いるソケット形状については、一般的にはオズール式ソケット(いわゆるTSB全表面荷重式)が好ましいと言えますが、ICEROSSの特徴を理解すれば、PTBタイプのソケットなど、特定部位で荷重を負担するソケット形状でも、ICEROSSは良好なソケットインターフェースとして使用できます。

PTBソケットでICEROSSを用いる。

ソケット形状による制約を念頭に置きます。圧力の集中箇所、膝関節ROMの制限など。

陽性モデルに盛り修正はせず、分圧パッドを用いるようにします。ピンや引きヒモなどの遠位懸垂を用いないようにし、下腿用バルブを用います。製品は、ICEROSS2カラーカバー無しを用います。

TSBソケットでICEROSSを用いる。

ピンやヒモなど断端末懸垂を用いる場合は、採型時にライナーの変形を再現するため、エロンゲート(引き伸ばし)をかけます。採型方法はアイスキャストコンパクトによる加圧採型が便利です。

陽性モデルに盛り修正はしません。分圧パッドを用います。加圧採型+エロンゲーションソケットは、前述のようにきつくなりがちですので、分圧パッドやソックスの活用など、ボリューム及び形状の一致と、ある程度遊びの両立を許容するソケット製作をこころがけます。

アイスキャストコンパクトによる採型



アイスキャスト・コンパクトは、遠位懸垂+全面荷重を前提としてICEROSSを使用する場合に、最もリスクの少ないソケット製作方法として、オズール社が考案した、加圧採型治具です。その特徴は以下の通りです。

採型時に断端末に軽く引き伸ばし(エロンゲート)がかけられるので、ピンやヒモなどの遠位懸垂方法と組み合わせてICEROSSを用いるのに適したソケットが製作できる。

採型時に均等で高い圧迫をかけることで、TSBソケットの要件としてオズール社が考える、断端の形状とボリュームにマッチしたソケットが製作できる。

実際の使用に当たっては、出張講習を実施しておりますので、その機会に確認頂くのをお勧めしますが、以下採型手順を要約し、そのポイントをお伝えします。(以下、ですますを省きます。)

ICEキャストコンパクトを操作し20mmHgまで作業のために与圧する。

ライナーを装着した断端に適正なサイズの採型カップを選ぶ。採型カップの目的は、引き伸ばしをかけた断端末を過度に圧搾しないようにするためである。

4層非弾性ギブスシーネを断端末にアプリケーションする。目的はICEROSSの遠位アタッチメントの形状を明確に捉えるためである。非弾性ギブスを4層程度ゆるく断端に巻く。

ライナーの先端のピンにアイスキャストをロックする。このとき、持ち手の加減でピンのアライメントが決定されるので、慎重に位置決めをする。

アイスキャストの先端を軽く引っ張り、ライナーにエロンゲーション(引き伸ばし)をかける。エロンゲーションの目的は、ICEROSSの緩み・遊びを取り除くことである。遠位懸垂を用いると、遊脚相でピンを介し引き伸ばす力が断端にかかる。シリコーンの緩みが取り除かれていないと、